

平成 2 2 年
福岡都市圏南部環境事業組合議会
第 3 回臨時会 会議録

平成 2 2 年 1 2 月 2 7 日 (月) 開会

福岡都市圏南部環境事業組合議会

1 議事日程

〔平成22年福岡都市圏南部環境事業組合議会第3回臨時会〕

平成22年12月27日

午前11時00分

於 春日市議会全員協議会室

日程	議案番号	案 件 名
日程第1		会議録署名議員の指名
日程第2		会期の決定
日程第3		諸般の報告
日程第4	議案第13号	平成22年度福岡都市圏南部環境事業組合一般会計補正予算(第2号)について

2 出席議員は次のとおりである(10名)

1番 光 安 力 議員	2番 宮 本 秀 国 議員
3番 松 尾 浩 孝 議員	4番 野 口 明 美 議員
5番 永 野 義 人 議員	6番 清 水 純 子 議員
7番 不 老 光 幸 議員	8番 中 林 宗 樹 議員
9番 加 納 義 紀 議員	10番 津 留 涉 議員

3 欠席議員は次のとおりである

な し

4 会議録署名議員

9番 加 納 義 紀 議員	10番 津 留 涉 議員
---------------	--------------

5 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名(6名)

管理者 井 本 宗 司	副管理者 井 上 保 廣
副管理者 高 島 宗 一 郎	副管理者 井 上 澄 和
副管理者 武 末 茂 喜	事務局長 北 嶋 昭 三

6 職務のため出席した事務局職員の職氏名(11名)

総務課長 永 田 辰 男	建設課長 新 谷 和 昭
総務係長 花 田 善 祐	土木係長 古 賀 政 隆
事業調整第1係長 八 尋 一 成	機械係長 小 濱 光 太 郎
事業調整第2係長 高 原 朗	電気係長 田 中 嘉 男
総務係 松 尾 克 己	建築係長 中 山 徳 仁
総務係 荒 木 俊 幸	

開会 午前11時00分

~~~~~

議長（松尾浩孝議員） 皆さん、こんにちは。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しておりますので、平成22年福岡都市圏南部環境事業組合議会第3回臨時会を開会いたします。

次に、本日10名の傍聴がありますので、ご報告させていただきます。なお、傍聴者におかれましては、お手元の傍聴者へのお願いをお守りいただきますよう、よろしくお願いたします。また、討論、裁決の際には、退席をしていただくことがございますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、議事に入ります。議事日程はお手元に配付しているとおりでございます。

~~~~~

日程第1 会議録署名議員の指名

議長（松尾浩孝議員） 日程第1「会議録署名議員の指名」を行います。

今回の会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、9番加納義紀議員及び10番津留 涉議員を指名いたします。

~~~~~

**日程第2 会期の決定**

議長（松尾浩孝議員） 日程第2「会期の決定」についてを議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日1日としたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ご異議なしと認めます。したがって、本臨時会の会期は、本日1日と決定いたしました。

~~~~~

日程第3 諸般の報告

議長（松尾浩孝議員） 日程第3「諸般の報告」を行います。

お手元に報告事項の一覧表を配布いたしております。監査関係の結果報告書及び行政視察関係の資料は、事務局に保管しておりますので、必要な方はご覧いただきたいと思ます。

以上で、「諸般の報告」を終わります。

~~~~~

**日程第4 議案第13号 平成22年度福岡都市圏南部環境事業組合一般会計補正予算（第2号）について**

議長（松尾浩孝議員） 日程第4「議案第13号 平成22年度福岡都市圏南部環境事業組合一般会計補正予算（第2号）について」を議題といたします。提案理由の説明を求めます。井本管理者。

管理者（井本宗司） 本日ここに、平成22年福岡都市圏南部環境事業組合議会第3回臨時会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、年末の大変公私ともご多用の中にご参集をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、本日ご提案をいたしております案件は、平成22年度補正予算について議案を上程し、ご審議をお願い申し上げます。

それでは早速、日程第4、議案書1ページ「議案第13号 平成22年度福岡都市圏南部環境事業組合一般会計補正予算（第2号）」についてご説明申し上げます。

今回の補正の内容は、歳入歳出予算は変更せず、債務負担行為のみを追加するものでございます。

続きまして、補正予算書2ページをご覧ください。

今回追加をいたします債務負担行為といたしましては、（仮称）新南部工場施設整備・運営事業、施設建設運営事業支援業務委託料、それにOA機器賃借料の3件でございます。

それぞれの詳細な内容につきましては、後ほど事務局長から説明をさせます。

よろしくご審議を賜りますよう、お願い申し上げます。

議長（松尾浩孝議員） 北嶋事務局長。

事務局長（北嶋昭三） それでは、日程第4「議案第13号 平成22年度福岡都市圏南部環境事業組合一般会計補正予算（第2号）」の詳細についてご説明申し上げます。

補正予算書の2ページをご覧くださいと思います。

まず、（仮称）新南部工場施設整備・運営事業でございますが、期間が平成23年度から平成52年度までで、金額は471億3,800万円を追加するものでございます。

（仮称）新南部工場施設整備・運営事業につきましては、これまで様々な検討を行いまして「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」いわゆるPFI法でございますが、これに則りまして、DBO方式により実施することとしまして、平成22年5月に実施方針を公表いたしました。

その後、民間事業者とのヒアリング、質疑応答等を踏まえまして更なる検討を行うとともに、福岡都市圏南部環境事業組合可燃ごみ処理施設整備・運営事業者審査委員会においてもご審議いただきまして、この度、正式にDBO方式により実施することによりまして、公共サービス等の水準の維持ないし向上が見込めるとともに、公共が負うリスクの低減、さらに公共財政負担の低減が見込めるとの評価にいたりましたので、特定事業として選定いたしました。

DBO方式による契約につきましては、設計・施工及び維持管理運営を長期かつ一括で発注する方式でございます。そのため、総合評価一般競争入札の入札公告前に、債務負担行為として予算に計上するものでございます。

債務負担行為の設定額の内訳としましては、建設費203億1,800万円、運営費268億2,000万円、合計471億3,800万円でございます。

次に、施設建設運営事業支援業務委託料でございますが、期間が平成23年度でございますが、金額は849万5,000円を追加するものでございます。

現在、平成22年12月31日までを委託期間としまして実施中の中間処理施設の建設及び維持管理運営に係るアドバイザー業務の継続委託でございます。

今回DBO方式により実施することで特定事業として選定いたしましたので、（仮称）新南部

工場施設整備・運営事業にかかる総合評価一般競争入札の入札公告後に、事業者の募集・審査・選定、事業契約締結、そして事業者審査委員会運営の支援等を実施することになりますけれども、これらの業務には高度な専門知識が必要となりますため、引き続き今年度から平成23年度にかけまして支援業務を委託するものでございます。

最後に、O A 機器賃借料でございますが、期間が平成23年度から平成27年度までで、金額は921万6,000円を追加するものでございます。

この内容につきましては、現在、使用しておりますパソコン等のO A 機器が3月末でリース期間が終了いたしまして、4月より新たなリース契約をすることになります。そのため、入札等の事務手続きを平成22年度中に行う必要があるため、債務負担行為として計上するものでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

議長（松尾浩孝議員） 説明は終わりました。

質疑を行います。質疑はありませんか。

（「議長」と呼ぶ者あり）

議長（松尾浩孝議員） 2番宮本秀国議員。

2番（宮本秀国議員） 当議会の議題となっております、債務負担行為の追加のうち、（仮称）新南部工場施設整備・運営事業についてお尋ねをさせていただきます。

まず、この新南部工場施設整備について、初歩的な確認を1点させていただきたいと思えます。建築物の施主は組合なのかどうか。それによって、所有者は誰になるのか。先程の説明では、建設工事費は203億1,800万円ということになっておりますが、建設費の負担はどういうことになるのか、お尋ねをしておきたいと思えます。

それから、私どもが説明を受けております資料に基づいてお尋ねをしておきたいと思えますが、事業期間の収支見込みについて、いわゆる、サービス対価ということで計上されておりますが、この内、建設工事費203億2,000万円。運営費等266億円。それぞれ、どのような事業体と契約をされるのか、確認をさせて頂きたい。そして、その他組合経費等、地方債償還等がありますが、いわゆる、収入から支出を差し引くと、公共負担額368億7,000万円。この368億7,000万円のそれぞれの構成団体の負担額をお尋ねさせて頂きます。新工場建設に関わる点は以上です。

2点目に、可燃ごみ要処理量について、お尋ねいたします。現在の南部工場での構成団体、福岡市、大野城市、太宰府市、春日市、那珂川町、それぞれの処理量が分かれば、それがひとつ。

それから、今回の可燃ごみ要処理量の計画量を改めて確認させて頂きたいと思えます。

それから、現在の福岡市南部工場の稼働年数がお分かりであれば、施設の稼働開始年月日、そして稼働年数、耐用年数を教えて頂きたいと思えます。

それから、当組合で検討されてきた報告書の中からですね、現施設が3基の焼却炉がありますが、工事を行う際に、必要となる焼却停止期間が長期になる為、関係市町の可燃ごみの全量焼却が出来なくなる可能性が高く、地方自治体の義務である一般廃棄物の処理が滞る危険性があるというふうに、現施設の更新ということなどについてですね、検討されてきた結果そういうことが

指摘されておりますが、具体的にはどういう障害が発生するのかですね。これをお尋ねしたいと思います。

それから、可燃ごみ要処理量について、お尋ねをいたします。この基本構想の中で組合が取り扱う可燃ごみ及び可燃残渣の排出量については、関係4市1町において統一した条件で行うと言われておりますが、統一した条件とはどういうものかお尋ねします。

さらに、将来のごみ量に影響を与える変動要因が発生した場合、必要に応じた再度推計を行うとしておられますが、影響を与える変動要因とはどういうものかお尋ねをします。

それから、人口推計について、関係4市1町の現人口と平成28年度それから25年間の予測値があれば、それをお尋ねします。

第1問目は以上です。

議長（松尾浩孝議員） 北嶋事務局長。

事務局長（北嶋昭三） まず、最初の南部工場にかかわる建設費203億円の内訳につきましては、交付金、国からの補助金でございますが、47億4,100万円でございます。それから、起債が131億500万円でございます。それから、その他各市町から頂く負担金としまして、24億7,200万円でございます。

施主については、この組合となりまして、所有もこの組合となります。

建設費の負担割合につきましては、パーセントで言いますと福岡市が25.7%、春日市が22.7%、大野城市が21.2%、太宰府市が15.8%、那珂川町が14.6%でございます。金額については、分かり次第申し上げます。

サービス対価の事業者との契約。どのような事業者かということですが、プラントメーカーを中心としまして、それと建設分野でございます、メンテ分野もございますので、そういう全体のJV的な、共同体的な事業者と契約する形になると思います。これは、提案を募集しました時にその辺がグルーピングされて提案書を出してきますので、その中で落札したグループということになります。

ごみ処理量につきましては、平成21年度におきまして、福岡市が181t/日、春日市が72t/日、大野城市が29t/日、太宰府市が23t/日、那珂川町が43t/日が実績でございます。計画量につきましては、福岡市が90t/日、春日市が79t/日、大野城市が74t/日、太宰府市が56t/日、那珂川町が51t/日でございます。

それから、現南部工場の稼働年数でございますけれども、昭和56年4月から稼働しております、今29年になります。トータルとしては35年間を目指してまして、平成27年度いっぱいということになっております。

計画ごみ量を決めた条件につきましては、新南部工場で処理する分につきましては、福岡市を除く3市1町につきましては、過去10年間、平成11年度から平成20年度までの人口の推移及びごみ処理量の実績値を基にしまして、平成21年度から平成52年度までの3市1町の関係市町毎で、一般廃棄物処理基本計画や大規模開発等の計画との整合を図りながら、将来の人口推計から算定しております。

また、福岡市につきましては、基本計画に基づきます計画ごみ量から東部、臨海、西部工場で処理する分を除いて算定しております。

人口につきましては、実績は平成20年度しかありませんので、平成20年度で申し上げます。春日市が10万9,297人、大野城市が9万4,739人、太宰府市が6万8,560人、那珂川町が4万9,296人。

平成28年度の推計で申しまして、春日市が11万26人、大野城市が9万6,770人、太宰府市が7万74人、那珂川町が5万387人、福岡市は、先程申しました様に人口ベースではないので、出しておりません。

そして、炉の容量を決めます時に用いましたピークの人口としまして、推計の中で春日市が平成28年度がピークでございまして11万26人、大野城市が平成32年度がピークでございまして9万7,196人、太宰府市も平成32年度がピークでございまして7万236人、那珂川町も平成32年度がピークでございまして5万503人ということで推計しております。

影響を与える変動量につきましては、政策上搬入形態が変わりますとか、国の制度によりまして極端に変動するとかいう要因でございます。

先程のプラントの入替をするときに停止する必要があるということでございますけれども、これにつきましては、2炉ございますけれども、どうしても共通部分がございまして、その共通部分を扱う時は、全炉停止になってしまうということでございまして、その期間としましては、4ヶ月間位が必要ではなかろうかという想定のもとに、これは困難だという結論になっております。

以上でございます。

(「議長」と呼ぶ者あり)

議長(松尾浩孝議員) 2番宮本秀国議員。

2番(宮本秀国議員) まず、新工場建設については随分わかりましたんですが、この事業期間の収支見込みについてですね、収入が、先程言われた環境省の交付金、地方債、それから事業収入、売電ですね、261億3,000万円。そして、支出がサービス対価として、建設工事費が203億円余、運営費等が266億円、組合経費等が13億円余、地方債償還が147億円余、支出合計が630億円、公共負担額が368億7,000万円。それで、それぞれ構成団体の負担額がどうなっているかというお尋ねをしたら、パーセントをおっしゃったんだけど、負担額は手元に無いんですかね、資料として。

無いということですが、収支見込み総額は出ていてですね、その債務負担行為をするのに、それぞれの構成団体がどういう負担をするのか、施設整備に対する負担金、それから、運営費等に関わる負担金、これがどういうふうに積算されているのかがですね、パーセントだけでは極めて不明だと思うんですね。

そして、具体的に言うと、施設整備が完了後、運営開始されることに伴ってですね各構成団体の負担額ということの適正額が、どうなるのかという問題等が、今後大きな課題だと思うんですね、それなのに、その25年間の計画の中で、それぞれの構成団体がどういう負担額になるのか

議会では示されないということであればですね、それは、極めて不誠実だと思うんですね。

私が指摘するのは、可燃ごみの処理量の状況によってはですね、この運営費等の金額についても、総事業費についてもですね、様々な動きが出てくるということが言えるというふうに思いますので、もしわかれば、明らかにしていただきたいし、わからないということであればですね、これは極めて不誠実だということを重ねて指摘をしておきたいと思います。

要は、そういう施設整備と、運営費等で事業費が368億円の不足額が出ると、その内、福岡市の負担額相当額は私ども説明を受けてますが、94億8,000万円ということですね。それが先程の25.7%になるのだらうと思いますが、そこで、ひとつ確認をさせていただきたいのは、先程、現在のごみ処理量についてですね、現南部工場での処理量について、福岡市181t、大野城市29t、太宰府市23t、春日市72t、那珂川町43tということで、新工場が建設された後、春日市と那珂川町は現在の南部工場に持ち込まれている処分量はあまり変わらないと思うんですね。それで、福岡市が181tが90tですから、半減します。大野城市と太宰府市について、確認させて頂きたいのは、現在、この両市で可燃ごみ処理量、総量は何tなのかですね。南部工場では、29tと23tとそれぞれ処分されておりますけども、この両市の日量ごみ処理量はいくらなのか確認させていただきたいのが1点。

そして、施設整備は日量510tの処理能力だったと思うんですね、それが、先程言われた計画量では350tということになりますんですが、この大野城市、太宰府市、春日市、那珂川町、先程人口はですね平成28年ないし平成32年がピークと、人口はその後減少します。施設整備はですね平成28年からだったですかね新工場の稼働は。そうすると、稼働してわずか4年で構成団体の人口がピークを迎えるということになればですね、人口が減少していくということですので、発生ごみ量はどういうふうに予測されているのかですね、それを明らかにして頂きたい。ごみの発生量というのは、人口の増減だけではなく、社会活動等様々な要因もあるんだと思うんですけどね。

そして大野城市、太宰府市、春日市、那珂川町のごみ減量施策については、どういう施策が方針として定められ、それぞれの地方自治体のごみに関わる基本計画の基で、どういう減量政策が行われているのかを確認させて頂きたいと思います。

その答弁を求めます。

議長（松尾浩孝議員） 北嶋事務局長。

事務局長（北嶋昭三） 建設費の関係市町負担金582億円の内訳としましては、先程の負担割合で計算いたしますと、福岡市が約148億円、春日市が約130億円、大野城市が約122億円、太宰府市が約91億円、那珂川町が約84億円でございます。

それから、3市1町の日量の南部工場だけではなく、発生量ということでございますけれども、春日市が75t/日、大野城市が69t/日、太宰府市が52t/日、那珂川町が45t/日でございます。

ごみの処理量につきましては、一応平成52年度まで推計しておりますが、1番最低になる所で、平成52年度で、春日市が68t/日、大野城市が72t/日、太宰府市が51t/日、那珂川町が50t/日でございます。

減量施策につきましては、大項目で申し上げますと、4市1町大体共通でございます、家庭

ごみの有料化、地域による減量リサイクル活動の推進、環境学習の推進、家庭での取り組み、事業所ごみへの対応という形で計画されているところでございます。

(「議長」と呼ぶ者あり)

議長(松尾浩孝議員) 2番宮本秀国議員。

2番(宮本秀国議員) 今の回答ではですね、この構成団体のごみ処理量が、春日市が75tが68tで、あとはそう変わらないんですね、この25年間。そうすると25年後の平成52年、53年に人口がどういふふうになっているかという予測があるかどうかわかりませんがですね、当然検討されるべき要素だろうと思うんですね。それで、その平成52年度の先程言われた春日市68t/日、大野城市が72t/日、太宰府市が51t/日、那珂川町が50t/日というこの数値は処分量としては、過大ではないんですか。

反論があったら後でして下さい。

例えばですね、福岡市がどうなっているかという、平成10年のごみの可燃物が58万9,695tですね。それがですね、11年経った平成21年度53万9,901t。10年前に比べて91.5%ですよ。人口はですね、この10年で10万人くらい増えていると思うんですよ。だから福岡市の可燃物のごみ処理量の減り具合は、約9%ですね10年間で。それから、市外からの搬入がですね平成10年、福岡市の処分場でですよ、市外からの搬入が4万7,000tがですね平成16年のピークで10万tと倍になっていますね。ところが、平成21年度はですね9万2,436tとピークからですね減少してます。92.21%、平成16年度と平成21年度比はですね。この市外からの搬入というのは、色々な地方自治体からの持込があると思いますが、基本的に先程答弁がありました、現南部工場を中心に関係市町村からの受入ごみ量だと思うんですよ。こういうのが、今の実績ですよ。今のこの実績からするとですね、この計画はですね、ちょっと正当性に欠けるのではないかというふうに思うんですね。

このごみ量が、その地方自治体のごみ発生抑制策、いわゆるごみ減量という積極的な地方自治体の取り組みと、産業構造の変化などによってですね、ごみは大幅に減らすことが可能だというふうに思うんですね。そうするとですね、いわゆる売電収入、82億9,000万円になってますんですが、これは、見通しとしてですね、まあ、見通しとしてはあるんだと言われるだろうけど、焼却ごみの減少によっては売電収入の減少が伴うということがひとつ言えるのではないかとということ、建設工事費の203億円に関わる減価償却は基本的に変わりませんので、そういう固定的な経費は動かないと。それで、運営費等の問題で、266億円が計上されていますが、このごみの受入量がもし変化し、減少することになればですね、この運営維持費の管理費等が固定的なもの流動性のある経費、支出等の問題も色々あるのだと思いますが、財政的な影響をですね被るのではないかというふうに思うんですよ。それで、先程指摘しました人口の将来予測、それからいわゆるごみに関わる社会経済活動のあり方、それから地方自治体のごみ減量政策等々からするとですね、この計画はですね少し過大すぎるのではないかなあというのは、ひとつお尋ねをしておきたいと思います。

それから、現南部工場ですね稼働問題ですが、今言われたように昭和56年4月に稼働した。

そして、現在29年。平成27年度いっぱい、耐用年数が35年なのかも知れませんが、これは、焼却炉の耐用年数というふうに理解しますが、建物の35年というのはですねこれはあり得ないというふうに思いますので、皆さんが検討されている、建設候補地である南部工場の既存建屋を利用したプラント入替工事は可能であるが、工事期間中においても南部工場での処理が必要であり、工事を行う際に必要とする焼却停止期間、先程の答弁では4ヶ月と、こういうことだと思うんですが、長期に渡るため、関係4市1町の可燃ごみの全量焼却が出来なくなる可能性が高く、地方自治体の義務である一般廃棄物の処理が滞る危険性があると、こういうふうになってるんですね。それで、プラント入替工事の実施は不可能であり、既存建屋の利用等は行わず、施設を新設するとなっています。

私が今言いましたように、ごみの発生量は過大だと思われる。それから、4ヶ月間の期間停止をせざるを得ないということですから、それに対するですね方策は研究されなかったのかどうか。今、福岡市のごみ焼却とごみ焼却施設能力はですね、余力が発生し始めております。そういう点でいけば、4ヶ月の対応はですね十分考えられるんじゃないかというふうに思うんですね。だから、そういう点からすると、このプラント入替等が地方自治体と地域住民の負担を軽減するという点でいけばですね、それは現実的な施策の大きな選定をしていくことが出来る方策ではなかったのかという気がしますが。

その2点についてお尋ねをして、私の質問を終わります。

議長（松尾浩孝議員） 北嶋事務局長。

事務局長（北嶋昭三） 推計につきましては、容量を決めていったということですが、人口推計に大体1人あたりの排出量を掛けて出したわけです。ただし、直近のだけでいくと確かに言われているようにもっと低い値が出るかもしれませんが、やはり長期計画になりますとそういう2、3年とかですね、そういう感じでは到底計画出来ません。このため、10年間の推移を見て決めたものでございます。

ということで、私どもは妥当とっております。それが1点でございます。

それから、南部工場の方の建て替えでございますけども、これは、当然検討した結果、他市町村への影響も考えまして、全体でそれは無理だろうという結論に至ったものでございます。当然福岡市の他工場も含めて検討いたしました。そういうことで、4市1町で協議のもとに基本構想が出来たわけでございます。

以上でございます。

議長（松尾浩孝議員） 他に質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議長（松尾浩孝議員） なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に討論を行います。討論はありませんか。

（「議長」と呼ぶ者あり）

議長（松尾浩孝議員） 2番宮本秀国議員。

2番（宮本秀国議員） 先程の質疑の応答の中で、明らかにされましたんですが、事務局長の答弁

で言われてますが、人口予測に基づいて長期計画を立てたと、10年の推移を見て立てたと。福岡市の10年の推移を、私は具体的な根拠に基づいて指摘をしましたんですが、1割のごみ減量になってますよね。そして、それは人口が増加しているもとでそういう数値ですから、今から人口が減る時に先程の様な予測をされるというのはですね問題点があると。

それから、現在の炉のことを言われました。南部環境事業組合でですね構成団体のごみ発生を抑制する、そしてその発生に関わる減量政策、こういうものについてですね構成団体の中で、どういう施策が探求されているのか。これは当然、南部環境事業組合の中でもですね、相当の財政負担を地方自治体に求められるものですよ。地方自治体側はこういう計画で必要性があるということで組合側に申し立てたということで、組合は、地方自治体の要請を受けて、地方自治体の計画を受けてこの新工場がですね必要なんだという結論に至ったんだろうと思うんですよ。しかし、組合としてはですよ、その構成団体のごみを抑制するというごみ減量を積極的に進めていくという観点がどうなのかという点がですね、今の事務局長のお話もそういう点ではあっておりません。

だから、私は、この新工場建設に関わってはですね、2つの点で賛成し難い。

その1つは、長期計画がですね極めて、現状を踏まえて、人口予測を踏まえて、そして、減量政策の不明さからみても、この計画はですね、ずさんではないかということと言わざるを得ません。

それから2点目は、現在の南部工場の更新、施設の再整備で十分に対応出来るものではないかと。従って新焼却炉、いわゆるごみ焼却工場としてはですね、その必要性に疑問を持たざるを得ないというこの2点で反対をいたします。

議長（松尾浩孝議員） 他に討論ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議長（松尾浩孝議員） なしと認めます。これで、討論を終わります。

採決を行います。議案第13号原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

（挙手）

議長（松尾浩孝議員） 賛成多数であります。

したがって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

原案可決 賛成8名、反対1名 午前11時55分

~~~~~

議長（松尾浩孝議員） 以上で本臨時会に付議されました案件の審議はすべて終了しました。

これをもちまして、平成22年福岡都市圏南部環境事業組合議会第3回臨時会を閉会したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（松尾浩孝議員） ご異議なしと認めます。したがって、平成22年福岡都市圏南部環境事業組合議会第3回臨時会を閉会いたします。お疲れ様でございました。

閉会 午前11時56分

~~~~~

上記会議次第は、事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名します。

平成22年12月27日

福岡都市圏南部環境事業組合議会議長 松尾浩孝

会議録署名議員 加納義紀

会議録署名議員 津留 涉